

作業道作設の研修会を開催しました



6月2日から6月5日の4日間 栗東市荒張の金勝生産森林組合所有森林で作業道作設研修会を開催しました。

滋賀南部森林組合および高島市森林組合の作業班から11名の受講生が参加し、作業道作設の基礎を学びました。

今回の研修対象者は、これまで研修受講をしていない方や、作業道開設に慣れていない方とし、研修の目的は、県の作業道指針に基づく「崩れにくく、効率的な搬出に適した作業道」の技術の基本を習得することとしました。

講師である濱島利一さんは、本所管内で作業道を多く開設しておられる方で、県の指針を基本としながらも、現場で応用できる現実的技術をいろいろ教えていただきました。研修の目的である「指針の理解」とともに現場での応用技術を学ぶことができたと思います。また、講師と受講者同士が自分たちの技術論を意見交換することで、個々の理解を深めることができたと思います。

単線循環式架線搬出の取り組み

大津市の比叡山延暦寺の山で有限会社坂東林業（東近江市）による単線循環式架線搬出がおこなわれました。

ジグザグ架線といわれる架線集材の方法で、桜滑車を使いワイヤロープを循環させて木を搬出していきます。

集材には技術が必要で効率よく集材できる所に線を張るのが難しく手間もかかりますが、地表を荒らすことなくまた、周りの木に傷をつけることもなく搬出ができるという点で環境や景観に配慮した施策が必要な所では有効な方法だと思えます。



最新のタワーヤーダと搬器を使った生産性の高い架線集材

平成 26 年 10 月 10 日に岐阜県関市の株式会社カネキ木材の現場で研修会を行いました。

カネキ木材では、平成 24 年度補正先進的的林業機械緊急実証・普及事業で導入されたオーストリア コンラッド社製のけん引式タワーヤーダと自走式搬器（ウッドライナー）で30㎡ /1 人・日と非常に高い生産性で搬出作業を行っています。

以前のスイングヤーダでの搬出に比べ作業効率が格段に上がったことと作業の安全性が高まったことが良かったということです。

タワーヤーダやウッドライナーの性能もさることながら、木を下げるワイヤロープを自動で外すことができるオートチョーカー（写真下中央）が優れたものです。荷下ろしの時に木やワイヤーに直接接触せずにリモコンで遠隔操作で外すことができるので木の下敷きになるという事故が起きないし荷下ろしから次のサイクルに非常にスムーズに入ることができます。このオートチョーカーを導入するだけでも架線系の作業効率を上げることができるのではないかと思います。



森林の付加価値の向上を目指して 金勝生産森林組合 J-クレジットの取組

森林の施業を行うことによって得られる二酸化炭素の吸収効果をクレジットとして販売できるJ-クレジット制度を使って森林施業に付加価値をつけるための取組が栗東市の金勝生産森林組合で始まっています。

J-クレジットの取得にはいろいろ複雑な手続が必要ですが、今年度はまず金勝生産森林組合の森林でどれくらいの二酸化炭素の吸収が見込めるかについて経営計画を基に施業を行った場合についてのシミュレーションを実施しました。

この結果、経営計画で計画されている施業を行った場合約 2 千トンの二酸化炭素の吸収が見込めることがわかりました。あくまでもこの数字は計画書の数字上の話ですが、森林施業によりクレジット化できる二酸化炭素の量が相当あるということがわかりました。

金勝生産森林組合では、地域の山を将来の世代に引き継いでいきたいという思いがあり、山に手を入れる価値を若い世代にも知ってほしいという思いでJ-クレジットに取り組んでおられます。

来年度はさらにクレジット化に向けた取組をされる予定で普及としても支援をしていきたいと思ひます。



J-クレジット制度の概要



地域材利用ニュース



大津・南部地域の地域材利用を考える会を今年度2回開催しました。

大津・南部地域は滋賀県最大の都市部を抱え、木造公共施設の需要も高い地域であるため、今後、川上、川中、川下一体となった地域材利用の協議会を作り木造公共施設の需要に応えるべき体制を作っていければと考えています。

林業技術あれこれ

獣害対策の救世主となるか？ ～獣害防止プロテクター～

オーストリアTS-HOLZ社が販売している獣害防止プロテクターを紹介します。これは、プラスチック製の非常に軽いプロテクターで、樹木の梢端部をはさむことで野生鳥獣から樹木を保護するというものです。この方法のメリットは資材単価が安い（1個50円程度）ことと非常に軽い（1個3.5g）ため、従来の単木防除よりも1回の施工は安くて簡単にできるということです。ドイツやオーストリアなどのヨーロッパではよく使われている方法だそうです。



ただし、毎年成長とともに付け替える手間や日本とヨーロッパの獣害の状況など条件が違うため滋賀県の山でどのぐらいの効果があるのかわかりません。

そこで、滋賀県内何か所かに試験地を設置してこの獣害防止プロテクターの効果や施工手間などを研究していきたいと思います。深刻な獣害被害を防げる方法となればと考えています。

あのひと・この人

女性林業技術者 山村みゆきさん(三浦林業)

主に栗東市内で活躍する三浦林業で働く山村さん。1年前に林業の世界に飛び込む前は、生まれも育ちもこれまでの仕事も山とは全く無縁でしたが、この一年の間にチェーンソーを使っの伐採やグラブルを使っの搬出作業もこなせるようになってきました。今回の研修も4日間参加し、作業道作設の基礎を熱心に学んでおられました。

プライベートでは二人の娘さんのお母さんでもあります。「娘たちは林業って何やってるんやろって思ってると思います。」と明るく笑う山村さん。林業の魅力は？との問いに「なんやろね。なにがええのかわからんけど。他の仕事よりも林業がええわ。」と楽しそうに語っていただきました。これからも地域の森林づくりのために貢献していただけることを願っています。



平成26年度 西部・南部森林整備事務所（本所）

所長 神田 信行

次長 米田 稔（林業振興担当グループリーダー）

副参事 平田 明（林業振興担当）

副参事 仁科 克己（森林整備担当グループリーダー）



普及指導員

副主幹 鈴木 則夫

副主幹 田中 理

主査 芝田 理子

